第55章 DateTime構造体とTimeSpan構造体



DateTime構造体は、ある瞬間を表しますが、TimeSpan構造体は瞬間から瞬間までの間隔を表現します。

```
値を持ったDateTime構造体同士で差を求めることができます。結果はTimeSpan構造体となります。
たとえば、2006年12月10日をDateTime構造体に格納する方法はいくつかあります。
コンストラクタを利用して
dt = new DateTime(2006, 12, 10);
とするのが手っ取り早いかも知れません。あるいは、staticなParseメソッドを使って
dt = DateTime.Parse("2006/12/10");
と、する方法もあります。どちらも時刻を指定しなければ、0時0分0秒に設定されます。
DateTime構造体のコンストラクタには、多数のオーバーロードバージョンが存在します。この章では、次の2つを知っていれば充分でしょう。
public DateTime (
int year,
int month,
int day
public DateTime (
int year,
int month,
int day,
int hour
int minute,
int second
DateTime構造体のParseメソッドもオーバーロードバージョンがいくつかあります。
public static DateTime Parse (
string s
sには、日付と時刻を格納した文字列を指定します。時刻のみを指定したときは本日の日付になります。
では、簡単なサンプルを見てみましょう。
// setdate01.cs
using System;
class setdate01
   public static void Main()
       DateTime dt = new DateTime(1955,5,31);
       Console.WriteLine(dt.ToString("F"));
       dt = new DateTime(1955, 5, 31, 13, 15, 0);
       Console.WriteLine(dt.ToString("F"));
       dt = DateTime.Parse("12:15");
       Console.WriteLine(dt.ToString("F"));
       dt = DateTime.Parse("2006/12/31 23:59:59");
       Console.WriteLine(dt.ToString("F"));
       dt = DateTime.Parse("昭和30年5月31日");
       Console.WriteLine(dt.ToString("F"));
    }
```

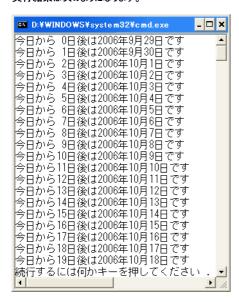
実行結果は次のようになります。

```
cax D.¥WINDOWS¥system32¥... □ x 日付の文字列に元号が含まれていてもよいことがわかります。
1955年5月31日 0:00:00
1955年5月31日 13:15:00
2006年9月29日 12:15:00
2006年12月31日 23:59:59
1955年5月31日 0:00:00
続行するには何かキーを押してく
次にDateTime構造体どうしの差を求めてみましょう。この場合結果はTimeSpan構造体に格納されます。
// calcdate01.cs
using System;
class calcdate01
    public static void Main()
        DateTime dt1 = new DateTime(1955, 5, 31);
        DateTime dt2 = DateTime.Now;
        TimeSpan ts = dt2 - dt1;
        Console.WriteLine("経過日数={0}日", ts.Days);
    }
1
実行結果は次のようになります。
                                _ 🗆 ×
D:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe
経過日数=18749日
続行するには何かキーを押してください
すでに、上のサンプルプログラムで出てきていますが、TimeSpan構造体の主なプロパティには、次のようなものがあります。
public int Days { get; }
public int Hours { get; }
public int Minutes { get; }
public int Seconds { get; }
public int Milliseconds { get; }
それぞれ、TimeSpan構造体が表す日数、時間、分、秒、ミリ秒を端数なしで取得します。
public double TotalDays { get; }
public double TotalHours { get; }
public double TotalMinutes { get;
public double TotalSeconds { get; }
public double TotalMilliseconds { get; }
それぞれ、TimeSpan構造体が表す日数、時間、分、秒、ミリ秒の合計を端数を含めて取得します。
public long Ticks { get; }
このインスタンス内のタイマ刻みの数を取得します。タイマ刻みとは、100ナノ秒です。
TimeSpan構造体のコンストラクタには4つのオーバーロードバージョンがあります。
public TimeSpan (
long ticks
public TimeSpan (
 int hours,
 int minutes,
 int seconds
public TimeSpan (
 int days,
 int hours,
 int minutes,
 int seconds
public TimeSpan (
 int days,
```

int hours,

```
int minutes,
 int seconds,
 int milliseconds
ticksにはタイマ刻み、hoursには時間、minutesには分数、secondsには砂、millisecondsにはミリ秒を指定します。
Date Time構造体にTimeSpan構造体の加算をすることにより、何日後とか何時間後の日時を取得することができます。
// calcdate02.cs
using System;
class calcdate02
   public static void Main()
        DateTime dt = DateTime.Now;
        TimeSpan ts;
        for (int i = 0; i < 20; i++)
            ts = new TimeSpan(i, 0, 0, 0);
            DateTime dtx = dt + ts;
            Console.WriteLine("今日から{0, 2}日後は{1}です", i, dtx.ToString("D"));
        }
    }
}
```

実行結果は次のようになります。



[C# Index] [総合Index] [Previous Chapter] [Next Chapter]

Update 30/Sep/2006 By Y.Kumei

当ホーム・ページの一部または全部を無断で複写、複製、転載あるいはコンピュータ等のファイルに保存することを禁じます。